

8 月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

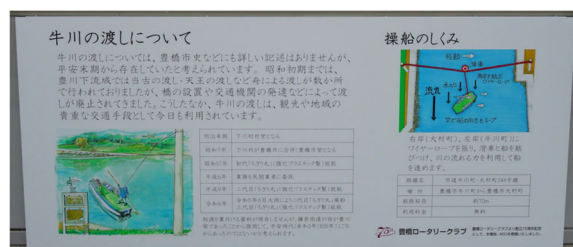
～牛川の渡し～



豊川に人を案内する時に絶对外せない場所が「牛川の渡し」だ。

人力（竿）で操船する渡し舟は全国でただ一ヶ所、ここ「牛川の渡し」しかない。年中無休で牛川と大村の間 160m を 5 分で渡る。法律的には道路で「市道牛川町・大村町 244 号線」という路線名を持っている。

渡し舟というと旧時代の異物、いったい誰が利用するのと思われるかも知れない。たしかに、中野の渡し（木曽川）や小紅の渡し（長良川）は一年で千～二千人程度しか利用者がいないのだが、「牛川の渡し」は年間の乗船者は約一万人、少ないながらも通勤通学で利用する人もいる。現在でも立派にその役割をはたしている。



(2023 年 1 月撮影)

両岸にワイヤーを張り、それをさらにワイヤーで船につなぎ、その船を竿で操船する（「岡田式渡船方式」という、上図参照）「牛川の渡し」は、風の向きや強さ、川の流量、潮の干満の影響を受けて日ごと船の進み方が異なる。また、季節、天気、時間によってさまざまな風景を見せてくれる。

「牛川の渡し」を利用するようになってから 10 年近くたつが、それでも新たな風景に出会うことは少なくない。「牛川の渡し」に乗っていると、自然がつねに変化しているということ、そして、未だ知らない豊川の姿が限りなくあるということを実感させてくれる。

〈次ページへ続く〉



(2020 年 11 月撮影)

～アメリカネナシカズラ～

豊川右岸 10km、水防倉庫あたりの土手に生息している。

はじめて見たのは 2～3 年前だろうか。誰かがカップラーメンを落として、麺がピリンピリンに乾燥してしまったのだらうと思っていた。しかし、何日経っても変化がないし、動物に食われた形跡もない。よく見るとつる植物の一種で、植物図鑑で調べるとアメリカネナシカズラという寄生植物だった。

近縁種には在来種のハマネナシカズラがあるが、こちらは東三河では渥美半島の西の浜でしか生息しておらず、しかも、近年、生息域が減少傾向にあるらしい。

一方、アメリカネナシカズラは、それこそ最初はカップラーメンをこぼした程度しか生息していなかったのだが、年を追うごとに生息域が拡大している。

外来種といえば、既存の種を駆逐していくイメージが強いが、人手が加わる堤防土手という環境では、新たな種が定着していくことはそんなに容易ではない。

この新参者、今後どうなっていくのか、楽しみである。

